

結核治療で重要な服薬継続支援。そのひとつである薬局DOTSの取り組みを東京都多摩府中保健所と杉山薬局牟礼店(東京都三鷹市)にそれぞれの視点でご寄稿いただきました。

## 薬局DOTSの連携の実際

東京都多摩府中保健所保健対策課

感染症対策担当 細谷 麻代子, 山川 哲也

### 薬局DOTS導入の背景

多摩府中保健所では、これまで服薬継続支援の一環として、保健師による訪問DOTS、面接DOTS、ハガキを用いた連絡確認DOTS等を行ってきました。管内での結核発生状況は2021年の罹患率が8.2、新規登録患者数が活動性結核で87人、LTBIで29人でした。新規登録患者数を年齢階級別にみると、80歳以上の高齢者が35人と40.2%を占める一方、20代～60代の就労世代も合計42人と48.3%を占めています。

仕事、学業等で多忙な世代の患者は、日中連絡が付きにくいことが多いなどDOTSを行う上での課題があり、既存のDOTSの利用が難しい場合が多いです。当所では、そういった患者に合わせたより多様な服薬支援を行うことを目的に、令和3年度から地域薬局と連携したDOTSを行っています。

### 支援の実際

療養支援開始時は、訪問や面接等による丁寧な情報収集を行うことで、患者の生活状況を把握し、患者にあった支援計画を立てます。その中で患者背景や生活リズムから薬局DOTSの利用が適切であると判断した場合は、患者や連携先の薬局に丁寧に説明しながら導入を進めていきます。

薬局DOTS導入時は、地区担当保健師が連携先薬局を訪問し、担当者に結核の特徴やDOTSについて説明するほか、患者支援計画を共有し薬局に求める支援内容について具体的に伝えています。導入後は、薬局からの実施報告書での報告に加え、利用予定日には電話で患者の状況を確認し、また患者の様子に変化や気になることがある際には薬局側からも連絡をもらうなど定期的に患者の様子や服薬状況について情報共有を行っています。

薬局DOTSを利用することにより、患者は受診時や薬受け取り時にDOTSを受けることができ、仕事等で

平日に保健所へ来所できない場合でも、薬剤師等の支援者に服薬に関する相談ができるようになりました。また、保健所も薬局と連絡を取り合う中で患者の体調や様子の変化に速やかに気づくことができ、必要時早期の支援介入につなげることができました。

### 地域支援ネットワーク構築に向けた連携の強化

多摩府中保健所では、結核患者が安心して療養生活を送ることができるよう保健所を中心とした地域支援ネットワークを構築することを目的とし、令和4年度に連携のあった薬局を招いてコホート検討会を開催しました。

コホート検討会では、圏域の結核発生状況やコホート分析結果を共有したほか、薬局DOTSの利用推進に向けた意見交換を行いました。参加薬局からは、「導入時から保健師に丁寧に入ってもらえた。こまめに電話をもらってうまく連携できた。」「普段は処方箋しか情報が無く生活背景を踏まえて服薬指導することができなかったが、DOTSの際は事前に患者背景を知ることができて良かった。」「SNSなど多職種で登録して利用できるツールがあれば、互いにやり取りができて良さそうだ。」などの意見が聞かれました。

### 今後に向けて

今後も就労世代の患者が一定数発生すると予想される中、患者が必ず利用している薬局や医療機関といった地域資源を活用したDOTSは重要と言えます。多摩府中保健所では今後も地域関係機関と連携しつつ、結核患者が安心して療養生活を送れるよう支援を継続していきます。🍵

# 患者支援の役割と連携の実際 ～調剤薬局としてのかかわり方～



杉山薬局牟礼店

管理薬剤師 水野 貴志

## はじめに

平成17年施行の結核予防法改正により、医療機関、保健所等が結核患者さんに確実な服薬を指導することが明確に位置づけられました。その中で、調剤薬局の薬剤師による直接服薬支援（DOTS）の実際について考察したいと思います。

## 調剤薬局のかかわり

薬局薬剤師は服薬指導、服薬管理、副作用確認等は専門であり、患者さんとのコミュニケーションは得意とするところです。保健所での服薬確認は自宅への訪問、電話での確認等が主な方法ですが、社会人の方であると、仕事等の関係で電話に出られない、または在宅していない等で直接確認できない事が多いと思われます。その点、薬局であれば患者さんが直接処方箋を持参されるので、その時に確認できることが利点と考えます。また、患者さんとの何気ない会話の中から服薬状況、副作用を確認できることもあります。

## 薬局DOTS導入事例

患者Sさん（**図1**）は成人スティル病、糖尿病治療中で治療薬の処方箋を調剤。とても丁寧に親近感がある方でコミュニケーションが上手くとれていたところへ、保健所から薬局DOTS協力依頼がありました。当薬局は結核指定医療機関であり、患者さんの生活状況がある程度把握していたため、直接服薬管理が可能と判断。薬局DOTS実施協力を了承しました。

## 飲み忘れない方法の提案

服薬を忘れる原因にはいくつかあります。①うっかり忘れてしまう。②長い期間、忘れずに服薬しなければいけないストレスで服用をやめてしまう。③症状がないので薬を飲まなくても大丈夫と判断してしまう、など。①に関して、当薬局では**写真1**のようにわかりやすく一包化しています。②、③に関して患者さんには何故、薬を飲まなければいけないのか、何故、忘れ

てはいけないのかを分かりやすく説明しています。また、**写真2**、**写真3**のように投薬カレンダーを用いて、服薬を忘れた時が一目で分かるようにしています。

## 医療機関、保健所との連携

DOTS協力薬局では、患者さんから得られた情報を処方医、保健所に連絡することが必要とされます。副作用発現の可能性、他科受診した際の注意すべき併用薬など、急を要する情報は速やかに連絡する。特に変化がない場合は1カ月に1回の頻度で服薬状況を書面にて連絡する。この連携によって医療機関、保健所としては患者さん都合で連絡が取れず受診状況、服薬状況が確認できなくなることを避けられることが考えられます。

## まとめ

今までは、服薬確認をする方法として保健所担当保健師の直接訪問、電話連絡、病院受診時の聴き取り確認などがありましたが、そこへ調剤薬局薬剤師によるDOTSが加わることで、更なる服薬状況確認ができ、確実に服薬をすることによって結核耐性菌の発生を防ぎ、治療成功へ導けると考えられます。DOTS実施で重要なのは、病院、保健所、薬局が連携してこれ以上結核で苦しむ人を増やさないという思いが必要と考えます。☺

- ▶ 患者：Sさん 63歳 男性
- ▶ 現病歴：成人スティル病、糖尿病、肺結核
- ▶ 処方内容：イスコチン錠100mg 3T  
リファンピシンC a p150mg 4C  
1日1回、昼食後服用  
他、糖尿病薬、ステロイド薬

図1. 薬局DOTS導入事例

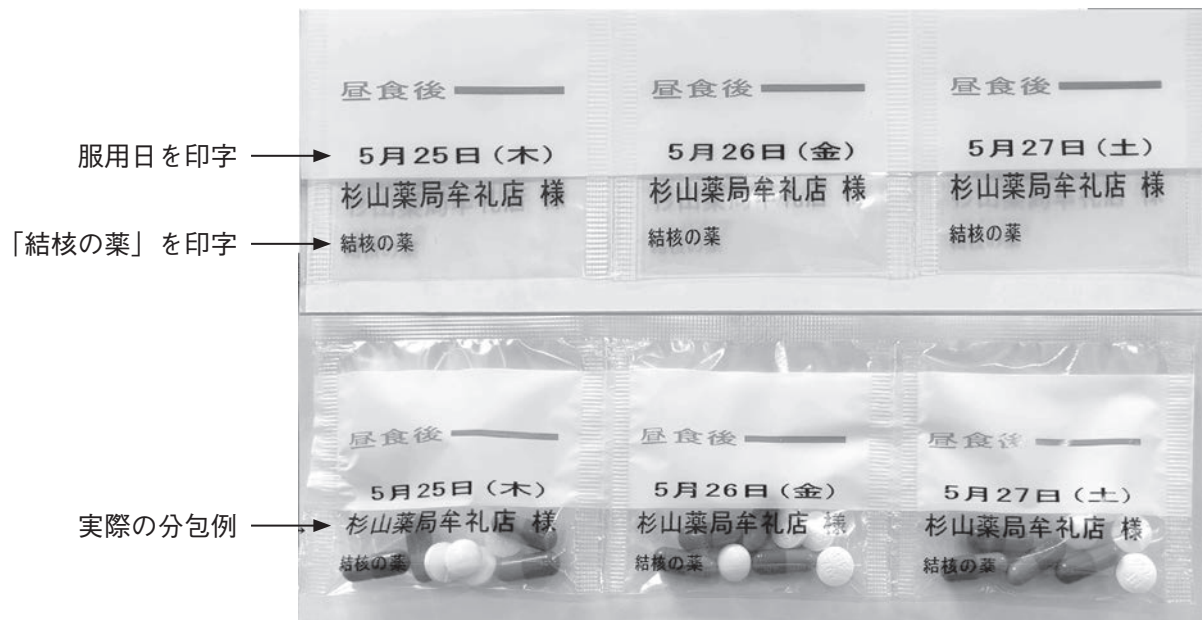


写真1. 実際の分包例



写真2. 投薬カレンダー



写真3. 飲み残しカレンダー